

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 6 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20520142

研究課題名(和文) 小型映画文化のアーカイブ構築にむけた基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study for the construction to archive of the small gauge film culture

研究代表者

富田 美香(TOMITA MIKA)

立命館大学・映像研究科・准教授

研究者番号：30330004

研究分野：映画史

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学、映画学、表象文化論、アーカイブ、大衆文化

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、大別すると以下3点である。第一に、昭和初期の家庭で享受された豊かな映像文化の様相を明らかにするとともに、京都における映像文化アーカイブの一端に、現代の映像文化の原点ともいえる小型映画でのホーム・ムービーの受容様相を加えること。第二に、小型映画フィルムの保存および復元方法の提案と実践を行うこと。第三に、これらの研究活動をとおして今後の小型映画文化アーカイブの基礎を築くこと、である。

具体的には、5年の研究期間内に、以下2種のコレクションを主な対象とし、それぞれについて以下～の6点を明らかにする。

(1) 昭和初期の京都ならびに京都の映画文化状況を写した小型映画40本

(2) 大正期から昭和初期にかけての9.5mm作品200本

フィルムの状態と特徴、フィルムのカタログリング方法とカタログリングの完成、小型映画文化(フィルムならびに受容形態)の復元方法と保存方法、媒体変換(テレシネ)による映像情報の複製方法、作品内容と評価に関する文化的調査、国内での小型映画文化保存の現状。

2. 研究の進捗状況

上記の研究概要に対して、以下の段階的研究計画をたて、予定通り進めている。

(1) フィルムの状態と特徴

08～09年度

(2) フィルムのカタログリング方法とその完成

09～10年度

(3) 小型映画文化の復元方法と保存方法

10～12年度

(4) 媒体変換による映像情報の複製方法

10～13年度

(5) 作品内容と評価に関する文化的調査

12～13年度

(6) 国内での小型映画文化保存の現状

08～09年度

3. 現在までの達成度

上記2.で述べた(1)(2)(3)(6)の調査を予定通りほぼ終了したことで、収蔵作品の概要把握と、アーカイブ方法を確定することができた。これによって、残り2年の研究期間は、作品内容や生成過程を主とした(4)(5)の研究と、アーカイブした作品の活用・普及をすすめ、研究の深化と総括の段階に入る。

4. 今後の研究の推進方策

前述した研究の深化については、追加的に復元作品あるいはデジタル化作品を選定し、それらの映像情報をもとに、作品内容と評価に関する文献・聴取調査をすすめる。

これらの研究成果とアーカイブ映像の活用・普及については、webや冊子、単著、上映会、映像アーカイブ授業や公開ワークショップを通して還元する。これらの研究・発表活動をとおして、国内外の主要アーカイブ機関との連携を深め、当該分野全体への還元と深化を試みる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計6件)

富田美香「戦前日本における映画検閲 < 残酷 > と < 民族 > La censure cinématographique au Japon avant la

Seconde Guerre Mondiale : <Nation> et <cruaute>」、『CENSURE, AUTO-CENSURE ET TABOUS Actes du quatrieme colloque d'etudes japonaises de l'Universite de Strasbourg』、159-187 頁、2010 年、査読無

富田美香「古都から映画都市創生のトポロジジー 作る人、見る人、かける人の相関」、『日本映画は生きている 第3巻 観る人、作る人、掛ける人』、第3巻、121-144 頁、2010 年、査読無

富田美香「日本映画におけるヴァンプ・イメージの形成 役者絵から女優鈴木澄子へ」、『日本文化研究とイメージデータベース』、132-153 頁、2010 年、査読無

富田美香「フィルム・アーカイブの活動と倫理的問題」、『映像文化の創造と倫理』、7-13 頁、2010 年、査読無

富田美香「映像にみる「京の乱」 映画、投影装置」、『立命館京都文化講座』、96-110 頁、2009 年、査読無

富田美香「映画にみる「京都の色彩」 光の美意識」、『立命館京都文化講座』、94-111 頁、2009 年、査読無

〔学会発表〕(計3件)

富田美香「大映カラー」：イーストマン・コダック カラーシステムの誕生』、国際日本文化研究センターシンポジウム「1950 年代日本映画における『戦後』の構築研究」、2011 年3月19日、国際日本文化研究センター

富田美香「日独合作映画『武士道』(1924 年、東亜キネマ)にみる日本表象」、『他者になること 東西文化の体験と変容の物語』、2009 年6月2日、国際日本文化研究センター

富田美香「戦前日本における映画検閲<残酷>と<民族>」、The European Center for Japanese Studies in Alsace (CEEJA)、2009 年3月20日、ストラスブール大学

〔図書〕(計1件)

赤間亮・富田美香編『日本文化研究とイメージデータベース』、ナカニシヤ出版、2010 年、276 頁

〔その他〕

アーカイブ上映・講演

富田美香「エトナ映画の自画像」、『神戸映画資料館 ホームムービーの日』2010 年10月16日、於：神戸映画資料館
<http://www.kobe-eiga.net/event/2010/10/8.php>

富田美香「小型映画が紡いだ映画文化の世界 エトナ映画、日活、9.5mm」、『NFC ニュースレター』、15 頁、90 号、2010 年、無
富田美香「戦前の小型映画文化」ホー

ム・ムービーは語る」、『東京国立近代美術館フィルムセンター フィルムセンター開館40周年記念 発掘された映画たち2010』2010 年5月16日、於：東京国立近代美術館フィルムセンター

http://www.momat.go.jp/FC/NFC_Calendar/2010-5/kaisetsu_13.html

富田美香「映画保存と復元 甦る京都の風景と文化」、2010 年3月5日、7日、於：京都文化博物。

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/KCSG/2010/03/post-21.html>

ホームページ

富田美香、コーディネイト授業テキスト「映像文化の創造と倫理」

<http://www.ritsumei.ac.jp/eizo/gp/report.html>

新聞連載

富田美香「現代のことは 二つの<映画の日>を祝う」、『京都新聞』2010 年11月1日

富田美香「現代のことは “真正な映像” の受容にむけて」、『京都新聞』2010 年9月1日

富田美香「現代のことは 映画フィルムを捨てないで」、『京都新聞』2010 年7月6日